

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	0990500050
法人名	社会福祉法人 緑風会
事業所名	指定認知症対応型共同生活事業所 いずみの里
訪問調査日	平成 21 年 1 月 12 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 25 日
評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0990500050		
法人名	社会福祉法人 緑風会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 いずみの里		
所在地	〒322-0065 栃木県鹿沼市泉町2396-3 (電話) 0289-77-8177		
評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	〒321-0162 栃木県宇都宮市大和2-12-27 小牧ビル3階		
訪問調査日	平成21年1月12日	評価確定日	平成21年1月25日

【情報提供票より】(20年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 2 月 11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9	
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.25 人	

(2) 建物概要

建物構造	準耐火 造り		
	1 階建ての	1 階	(小規模多機能施設併設)

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,300~29,800円		光熱水費	13,000円
敷金	無		おむつ代	実費
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)		理美容代他	実費
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		- 円	

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎内科医院 ・ 小林歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿沼市の北部、千住山に抱かれた住宅地の一角に、「いずみの里」があります。当事業所は、社会福祉法人緑風会の介護事業の一つとして、小規模多機能施設と併設されたグループホーム(GH)です。製材所の広い跡地に建てており、建物の内部の左半分がGHで、天井が高く、共有空間・居室共に広々として、開放感・清潔感に溢れ、ゆったりと暮らすには最適の場です。職員全員が法人内の介護施設勤務経験者で、当初は「特養」と「GH」の仕事の違いに若干の戸惑いはあったが、11ヶ月を経過して、利用者とも馴染み、家族との信頼関係も出来てきた。「気づき」・「見守り」・「笑顔」の実践で、利用者の地域での生活を支えることを、目指している「新鮮で、元気な」GHです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>初回の外部評価です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての評価で若干の戸惑いと緊張は感じられたが、評価の準備の中で、改善に繋がる「ヒント」は得られたとしている。自己評価の作成、当日のヒヤリングを含めて今回の評価の意義は十分に達しているとの印象を受けました。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議設置規定に則り、1回/2ヶ月開催。メンバーは家族代表・地域包括支援センター職員・地域の代表・見識者2名・管理者・介護職員の7名。直近の会議では、利用状況報告・会議への利用者代表参加の是非、今回の外部評価受審の予定などが報告・討議された。次回は外部評価の結果報告と期待項目に対する取り組みをメイン議題として、メンバーに報告・相談しながら、改善計画シートを作成し、全職員で取り組みのプロセスを大切に、着実に改善成果に結びつく事を期待します。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>各利用者の家族訪問は頻繁にあり、GHでの様子や暮らしぶりはその都度報告し、病気などは随時報告している。現場で直接職員が伺った不安・意見などは即刻管理者が対応を心がけている。運営推進会議結果など、GH全体の動きを全家族へ共通にお知らせする仕組みはない。「お声のカード」記入が一度もない。家族の意見・苦情・不安が潜在化していないか、確認する仕組みを検討し、運営推進会議でも意見を聴く予定をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開所当初より、地域の方々の事業所に対する関心は高く(小規模多機能併設のメリット)、地域住民との交流は多い。利用者も外出を兼ねて地域行事へ積極的に参加をし、知り合いとの出会い・会話を楽しんでいる。近所の方からの旬の食材の差し入れ、プロ写真家の季節ごとの写真展示、七段飾りお雛様セットの寄贈などもある。GHの行事へも地域の方々の参加を積極的に働きかけており、さらに、理解と交流が深まることに期待します。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は「住みなれたこの街で、ゆったりと暮らしたい」としているが、グループホーム(GH)としての理念はない。地域の一員として受け入れられるよう、地域密着に関する内容の理念を制度見直しに合わせて、作成する予定をしている。	○	早期に、全職員参加で地域密着に沿う理念が作成される事を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	『職員心得』の1つである「気づき」に関しては、管理者は当初より口癖のように話しており、職員は個々に理解し、少しずつ実践している。開所以来11ヶ月であるが、利用者全員が紙パンツからパッドへ切り替える事が出来たのは、タイミングの良い「声かけ」と寄り添う「見守り」の大きな実践成果であり、全職員の自信に繋がっている。		職員心得は通用口や、事務所に掲示してあり共有し、周知が図られている。 『いずみの里職員心得』 ・「気づき」こそ介護の基本である ・相手を解らずして「見守り」と言うべからず ・「笑顔」が相手も自分も幸せにする
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加しており、各種の行事案内をいただき、地域の「御成橋夏祭り」、その他、公民館での行事に参加している。事業所芝庭での「よさこい夏祭り」に、地元子供会の参加やCATVの取材もあったり、交流を楽しんでいる。利用者が混乱しないよう見極めながら、積極的に参加を呼びかけ更に交流を深める努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価で、若干の戸惑いを感じられたが、評価の準備の中で、改善に繋がる「ヒント」を得る事が出来、今後の検討課題の設定に役立ったとしている。評価結果を踏まえ、研修会を行い、改善計画シートを活用して全職員で具体的な改善に取り組む予定をしている。	○	改善計画シートの作成と実行・チェックに期待します。 「プロセスを大切に、出来る事から着実に！」
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・地域包括支援センター職員・地域の代表・見識者2名・管理者・介護職員の7名構成で、2ヶ月に1回の会議を持ち、各出席者から意見を聴いている。直近の議題は:利用状況報告・会議への利用者代表の参加の是非、外部評価受審の予定など報告討議された。内容は、全職員へ伝達して、出来る事から実行している。	○	・今回の評価結果に基づき、「改善計画シート」を作成し、会議で報告・議論され、メンバーがモニター役になり、結果が実効性ある物になる事に期待します。 ・評価結果が全家族に報告され、共有化されることも期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告や利用状況報告、制度上の相談など市の介護保険課へ積極的に出向いており、アドバイスをもらっている。北地域包括支援センターとは機会あるごとに情報交換を行うなどしてサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者個々の様子や暮らしぶりは面会時に報告し、病気については随時報告している。(家族訪問は頻繁にある)金銭管理(お小遣い)については、利用頻度が少ないために、3ヶ月ごとに締めて出納帳にレシートを添付して報告している。	○	家族との信頼関係をより一層深めるためにも、定期的にGHの行事予定や、活動状況が全家族に報告される仕組みとして、「いずみの里便り」の発行を期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者ならびに外部者へ表せる機会があることを、入居時の重要事項説明書に示し、家族に説明している。玄関に「訪問者カード」と「お声のカード」を並列設置し、記入していただくようになっている。「お声のカード」は今までに一度も記入の事実はないのでPRすることを検討している。	○	「お声のカード」の設置・活用が周知されていないのでは？代わるべき物が必要なのか、運営推進会議で確認・意見交換され、本音の家族意見が運営に反映される仕組み作りが出来る事を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ、異動・離職ともに発生していない。想定した、対応策の検討が必要だと認識している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の人事考課で、個々の目標・反省など記入させ、直属上司との面談でスキルアップの確認を行っている。習熟度、経験、立場に応じた各研修に職員を参加させている。報告書の提出と職員会議の場で発表する事により、研修成果の共有と、職員全体のレベルアップに努めている。研修費用は全て事業所で負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の連絡会や近隣のホームの管理者との情報交換などの交流はある。職員は、同法人内の他事業所(特養)との交流にとどまっている。過日、近隣の「GH」から3班に分かれ利用者も含めた見学と交流があり好評であった、今後も交流を継続し相互評価に繋げたいとしている。		他法人・他事業所の見学や交流の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組むことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新設事業所のため、ほとんどの利用者が同時入所。入所後、不安そうに見える利用者には、外泊・外出・面会の頻度を調整するなど、本人・家族と相談しながら対応してきた。現段階では全員安定している。今後、新規利用者が出た場合は、徐々に馴染み、利用開始になるよう、相談対応していく体制が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事(料理・洗濯物たたみ・掃除)に参加していただきたり、花壇の手入れ、近くのスーパーマーケットへの買い物同行など行っている。また、職員が利用者から生活歴や経験からなる貴重なアドバイス(きんぴらごぼうの太さ・量の拭き方など)を貰う事もある。		ADLの低下・症状の進行などによって共に支えあう関係が困難な場合も想定し、対応の工夫に努めたいとしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を正確に伝えられる利用者は少ない。ケース記録やカンファレンス記録の内容、更に家族への相談などで本人本位になるよう、思いや意向を把握し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現段階では、通常の計画を作成対応。更新時にカンファレンスなど行い、見直しする。家族は全員市内在住者なので、連絡すると直ぐに来てもらえる。夜間対応(職員1名)について、転倒の前歴者のトイレ介助などが手薄にならないように、「重点見守り」などで対応しているが、夜勤者の負担は大きい。	○	職員増員などの難しさはあるが、併設施設と併せて、夜勤者の勤務体制の見直しに期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今のところ安定しており、6ヶ月～1年の見直しのみ。現在の計画では対応できない変化が生じた場合、カンファレンスなどにて家族も含めて検討し、新たな計画を作成する。経過観察記録の記入内容の精度を上げるよう全職員で取り組んでいる。	○	変化の兆しに、予防的に対応した介護計画になるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイなどは開設後3年経過しないと対応できないため、多機能性を活かさない。 3年後の状況により対応を検討する。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、家族対応にてお願いしている。受診結果は家族から報告を聞き、医師の指示・服薬の変更など ケース記録に記載し、情報を共有している。緊急時には、家族に連絡し、搬送などはGHで対応している。時によっては、グループのメリットを活かし、同法人の協力医の対応も可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点までには発生していない。 どこまでの状態まで見ていけるか検討し、グループの他事業所(特養)との連絡体制も取って行きたい。利用者・家族にとって最後まで安心の場所でありたいとの思いを受け止め、今後の課題・検討事項と認識している。	○	家族にとっては最大の関心事、早い段階から話し合わせ、全員で方針が共有できる仕組み作りに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけ時には、プライバシーを損なわないよう言葉遣いには特に注意している。 全職員がお互いに現場で確認しあっている。 個人情報に関する同意(本人・家族)、誓約書(職員)を取り、記録などは、事務所の指定場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分が今日どう過ごしたいか、正確に伝えられる利用者は少ないが、一人ひとりの、その時々での状態や、体調に合わせて、何が出来るか、何をしたいのかを見極めて、対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けなど、一人ひとりが出来る事には参加している。車椅子や腰掛けのままでも、調理しやすいように、キッチンに工夫がしてあり、職員との会話を楽しみながら調理している。職員の栄養士が旬の食材や新鮮なものを採り入れ、メニューを工夫し、味付けや量も普通食と変わらない、バランスの良い食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の流れの中で、時間帯の制限(早朝・夜間は不可)はあるが、ある程度は柔軟に入浴できるように対応している。3~4回/週で午前・午後の希望時間帯に入浴。お湯の入れ替えは入浴の都度。入浴を拒む人は、気分の良い時を見計らって「声かけ」、お喋りで気分転換しながら入浴している。		利用者の習慣や多様性を活かす、個別入浴支援は検討課題であると認識している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出や趣味の活動(編み物教室・絵手紙・百人一首・カラオケ)など実施している。午後のおやつ前のストレッチ体操は、多くの利用者が喜んで参加している。年間行事計画で毎月々の行事に合わせて、装飾作りや・おやつ作りの機会を提供し、「出来る力」を活かす支援をしている。		利用者のADLに差があるが、そのときに応じた支援を心がけている。1年経過し、各行事毎との利用者の反応と職員の反省を踏まえ、次年度の計画が、利用者・職員共に楽しみ合える、より充実した内容になるよう期待します。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や毎日の散歩などは、職員が「声かけ」を行い、本人の体調も見ながら出来るだけ戸外へ出るようにこころがけている。インフルエンザの流行時期でもあり、外出の機会は少ないが、天気の良い日には広く整備された(・歩行器・車椅子走行可)、裏庭で日光浴と散策を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間や日中は玄関に鍵は掛けていない。玄関は午前7時~午後8時まで開け放している。現時点でGHには外出志向の強い利用者はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を予定し、昨年6月に鹿沼消防署と合同で実施した。避難訓練は事業所内で行っているが、地域との協力体制は出来ていない。地域での訓練があれば、参加していきたい。消防用設備として、自動火災報知機・スプリンクラー・ガス漏れ探知機・消火器・排煙設備他を設置している。	○	・夜間災害想定訓練の実施(危機管理マニュアルはあるが、災害時に機能するか?のチェック)。 ・近隣住民との協力体制の確立(具体的な話し合い)。 ・設備の保守点検(動作確認を含む)の完全実施に期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を個々にチェックし、業務日誌に記録して、体調変化の目安にしている。必要な場合は、別にIN(摂取)・OUT(排泄)チェックや水分量の摂取チェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井も高く、窓も大きくて全て広い(開放感一杯)。、トイレ(4ヶ所)・風呂・洗濯場など不快臭は全くない。玄関・フローアなどに装飾を工夫している。季節の花を利用者と一緒に飾り、変化を感じていただいている。3月には近隣の人から寄贈された、7段雛飾りを予定している。フロアマットの上にコタツが置かれ、集まってテレビを見たりお喋りを楽しんでいる様子が伺えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持参していただき、安心して生活できる空間作りに努めている。仏壇やテーブル・ベッド・箆箆などを持ち込んでいる利用者もあり、生活感が感じられる居室になっている。カーテンは防炎カーテンのため同一色(1室のみ希望により遮光カーテン併用)で統一されている。		